平成７年兵庫県南部地震による被害

遠藤秀典・釜井俊孝・卜部厚志

第１図　地震発生翌日の１月18日午前10時頃に撮影の空中写真．　南西から北東方向に向かって撮影．左手奥の駅がJR六甲道駅．この駅の手前側では鉄道高架が落下している．また写真中央手前では火災によって建物が焼失している．鉄道とこの焼失区画の間で，多くの家屋が倒壊している．現地調査結果によると，この範囲の木造家屋の大部分が全壊の被害である．［撮影：中日本航空（株）］

第２図　空中写真判読による被害分布の概要図．　本特集号69ページの第１図をカラーで示す．

第３図　神戸市灘区における家屋被害の集中した地区の1995年２月初旬の状況．　木造家屋の多くが倒壊し，道路をふさぐ状態になっている．

第４図　神戸市東灘区における鉄筋コンクリート造の建物の被害．　10階建ての建物の柱がせん断破壊し，１階部分が潰れている．

第５図　神戸市中央区における鉄筋コンクリート造の建物の被害．　４階建ての建物の１階及び２階部分が潰れている．写真手前側に鉄筋が折れ曲がった状態が示されている．

第６図　神戸市東灘区における鉄骨造の建物の被害．　道路をふさぐように倒れ，1階部分が潰れた状態になっている．

第７図　火災によって建物が焼失した区画．　火災によって木造家屋が焼失し廃墟と化している．ここでは，写真奥の鉄筋コンクリート造建物の柱がせん断破壊し，地震動そのものによる被害も大きかったと推定できる．

第８図　神戸市長田区の海岸付近埋立地における液状化による被害．　液状化によって地面に亀裂・段差を生じるとともに，石油タンクが傾いている．

第９図　芦屋市三条町における人工谷埋め・盛り土に関連した地すべり．　地すべりの頭部に発達するクラックで，約１ｍの落差を伴っている．

第10図　西宮市五月ケ丘における急斜面の崩壊．　数軒の民家が巻き込まれている．浅いスランプによる段丘崖の後退現象であり，一般に小規模であるが，移動速度が速く危険性が高い斜面変動である．